

第3回

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会

日 時：令和4年 3月24日（木）
10：00～
場 所：丸森町役場 302会議室

次 第

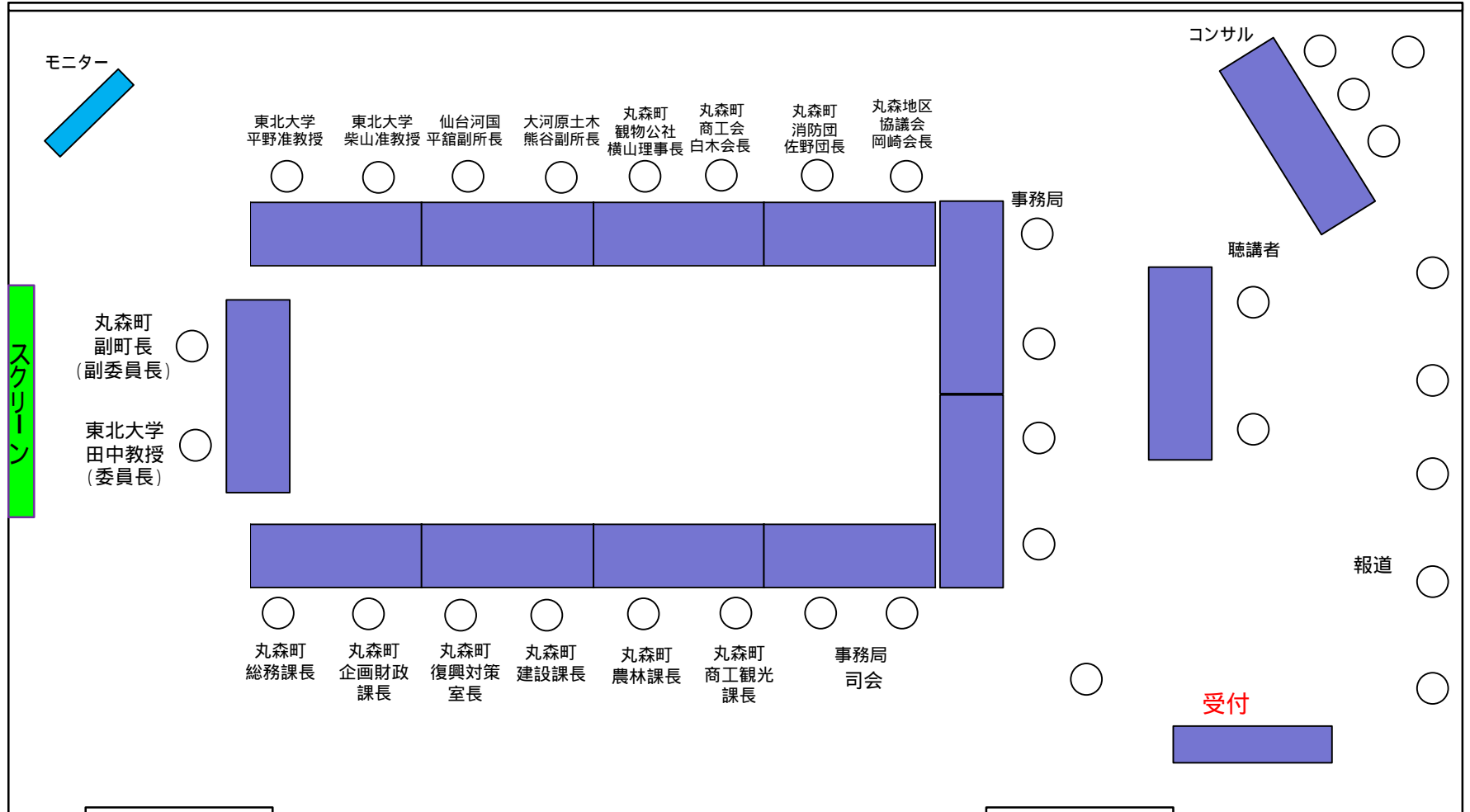
- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 第2回委員会の概要報告
- 4 住民説明会の概要報告
- 5 検討事項
 - (1) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用修正案
 - (2) 令和4年度以降の進め方
- 6 閉 会

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会
名 簿

団体名	所属等	氏名	備考
東北大学大学院	工学研究科教授	田中 仁	委員長
東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	
国土交通省東北地方整備局	仙台河川国道事務所副所長	平舘 淳一	
宮城県	大河原土木事務所副所長	熊谷 滋雄	
丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
丸森町商工会	会長	白木 寛一	
丸森町消防団	団長	佐野 昭一	
丸森地区協議会	会長	岡崎 俊範	
丸森町役場	副町長	佐々木 秀之	副委員長
〃	総務課長	大内 一郎	
〃	企画財政課長	長門 修	
〃	復興対策室長	日下 健	
〃	建設課長	八巻 一浩	
〃	農林課長	引地 誠	
〃	商工観光課長	穴戸 光晴	

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会 配席図

会場:丸森町役場 3階 302会議室



入口

第2回 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会

1) 開催日時

令和4年1月17日(月)

10:00~11:30

2) 開催場所

丸森町役場 302 会議室



3) 出席者委員

団体名	所属等	氏名	備考
東北大学大学院	工学研究科教授	田中 仁	委員長
東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	
国土交通省東北地方整備局	仙台河川国道事務所副所長	平舘 淳一	
宮城県	大河原土木事務所副所長	熊谷 滋雄	代理
丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
丸森町商工会	会長	白木 寛一	
丸森町消防団	団長	佐野 昭一	代理
丸森地区協議会	会長	岡崎 俊範	
丸森町役場	副町長	佐々木 秀之	副委員長
〃	総務課長	大内 一郎	
〃	企画財政課長	長門 修	
〃	復興対策室長	日下 健	
〃	建設課長	八巻 一浩	
〃	農林課長	引地 誠	
〃	商工観光課長	宍戸 光晴	

4) 議事次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 第1回委員会の概要報告
- 4 検討事項
 - (1) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用修正案
 - (2) 今後のスケジュール
- 5 閉会

5) 協議結果

(1) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用修正案

施設配置計画について

(主な意見)

- ・駐車場の配置は大型と小型を入れ替えた配置を検討すること。車両軌跡で大型車の左折を確認すること。
- ・芝生広場と川側の広場の連続性、眺望広場と管理用通路を一体化したデザインを検討して欲しい。
- ・居久根は樹木間隔（密度）をコントロールすることで見通し良くすることが可能である。全体が居久根を再生していることをイメージ持たすよう検討してほしい。
- ・管理用通路が2本並行していると色々な錯誤を招くため1本化したほうが良い。
- ・防災ステーション内の動線は日常利用において錯誤が無い動線造ること。Rにエッジを出し、縁石が入っている状況とするのが良い。

水防センターについて

(主な意見)

- ・駐車場側に空間をとったうえで、平常時のアプローチを考慮して水防センターを配置すること。
- ・水防センターの建築計画では前の受けをつくり使い勝手が良いようにすること。
- ・水防センター内の仮レイアウトとしてキッチン等を配置し、使いやすくバックヤードが確保できることを確認すると共に建築計画の際に支障が無いよう配置を決める段階で確認すること。
- ・水防センターの前と後ろの設えを再検討し、日常利用が可能な川の駅とすることが望ましい。
- ・水防センター内に、消防団の所有するゴムボート、その他資機材を収納できるスペースを確保して欲しい。
- ・車庫は、広場側・川側の両方から出入り可能となるよう扉も設けて欲しい。

舟着場

(主な意見)

- ・船着場は水制を出すことで河岸を掘り込まずに設置が可能か検討すること。
- ・阿武隈川にある巨石について、リバーアクティビティ利用時の支障となるため、可能であれば撤去が望ましい。

その他

(主な意見)

- ・渡河施設は内川の河道特性（堆砂特性と施設安定性等）に合致した事例を確認のうえ、構造検討すること。
- ・地元説明時には第2回検討委員会の意見を踏まえた修正案を提示するものとし、委員には事前にメールで案内してほしい。

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用に関する住民説明会 概要

- ◆ 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用について、委員会案がまとまったことから、住民の方々の意見を聞くため住民説明会を開催
- ◆ 当日は約30名の方が参加し、活発な意見をいただいた
- ◆ 意見は第3回の委員会に反映し、河川防災ステーションの整備内容、配置については確定し、利活用については素案をまとめる予定

《開催概要》

- 日時：令和4年2月17日(木) 19:00~20:30
- 場所：丸森まちづくりセンター
- 住民参加者数：27名
- 説明側参加者：丸森町町長、
仙台河川国道事務所副所長 他



住民説明会の様子

《丸森町長あいさつ》

台風19号から2年4ヶ月が経過し、国や県、全国の自治体の派遣職員の力により、復旧・復興は概ね順調に進んできた。町としても1日でも早い復旧・復興を成し遂げたい。

河川防災ステーションは阿武隈川水系では宮城県内初めての整備となる。災害時の拠点とすることはもちろん、1年の大半を占める平常時の活用を大事に検討してきた。このステーションができることにより地域の皆さんが活動しながら交流を深めることができると考えている。

《仙台河国副所長あいさつ》

令和元年東日本台風により、現在阿武隈川にて緊急治水プロジェクトと題して河道掘削を進めており、宮城県側で概ね70万m³と大規模に掘削している。

河川防災ステーションは災害時の防災活用がメインの事業となるが、そのような活用の機会は非常にまれなものであり、平常時にみなさまに有効活用いただくことは重要であると認識している。

《主な意見等》

- 災害後から「女子重機隊」という活動をしており防災ステーションで重機の運転練習ができればいい。
- 防災かまどベンチを整備し、これを活用して炊き出し訓練等コミュニケーションしながら訓練等ができるとうい。
- 電気自動車が発災時の電源確保に有効だと聞いたので、電気自動車の充電ステーションがあるといい。
- 災害になるとしばらく風呂に入れず、自衛隊の入浴支援の際に、温かさが生きる希望となったり、情報交換する交流の場になったりした経験があり、入浴施設があるといい。
- 丸森の国産材を使った図書館や子供の遊び場があるといい。
- 防災学習は大変大事で、現在は観光にもつながる。防災はまず災害を知るところから始める必要があり、台風など川の災害がわかるような展示をしてほしい。土のうづくりなど体験型の学習も必要である。
- 河川防災ステーションが視察場所になると考えると、丸森町内の資源によるバイオマスやせせらぎ水路で実験的に水力発電をすることも検討してほしい。
- 階段を幅広く整備し、船着場にステージを設置すると、階段を観客席にコンサートなどが実施できる。
- 丸森での滞在時間を長く、宿泊も促すのであれば、川沿いにBBQ施設を整備することもいい。
- 丸森に猫神社があり昔から猫を大事にしてきた風土から、猫カフェなどもいい。
- コロナにより避難による施設内の密を回避するために、水防センターの屋上を有効活用できるようにしてほしい。
- 内川に飛び石等を整備する場合、サケとアユの遡上を阻害しない構造になるよう配慮してほしい。

第3回 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会 ＜説明資料＞



目次	
1. 河川防災ステーションの整備方針	1
2. 土地利用・動線・施設配置	2
3. 水防センター整備計画(案)	4
4. 河川防災ステーションの平常時利活用(案)	5
5. 河川防災ステーションの災害時利活用(案)	7
6. 河川防災ステーションと一体となった周辺整備(案)	9

令和 4 年 3 月 2 4 日

国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所
丸森町

1. 河川防災ステーション整備の目標と方針

整備目標

- ① 防災
阿武隈川の安全・安心を高める広域的な防災拠点の確保
- ② 地域活性化
R113号と阿武隈川に隣接する立地条件を活かした丸森町の新しいゲートウェイ機能の創出

候補地周辺航空写真



主な土地利用は畑、家屋は1軒

整備方針(案)

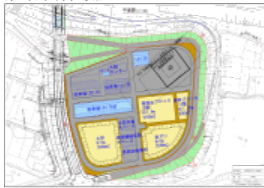
- ① 立地選定
丸森町河川防災ステーション候補地の概要は以下のとおり。
 > 当該予定箇所周辺は、「令和元年東日本台風」による浸水が発生した場所である。
 > 緊急輸送道路に位置付けられている国道113号に隣接しているほか、近傍に高速道路が2系統(常磐自動車道・東北自動車道)あり、**広域的な災害時の拠点として活用可能**。
 > 市街地に近く、災害時における**住民の緊急避難場所としての機能性が高い**。
 > 市街地に近接した場所であるほか、既設の船着場も近くにあり、**阿武隈ライン舟下りの発着所としての活用等、平常時の利用が見込まれる**。
 > 当該計画地は、**災害時の丸森町役場の代替機能(支援物資等の集積所、仕分け拠点)を担うのに最適な場所である**。
 > 人流のメインとなる国道113号に隣接し、**ここを拠点にまちなかへ人を誘導するゲートウェイとして絶好の場所に位置づけられる**。
- ② 土地利用・動線・施設配置
 > 必要とされる広域的な防災拠点としての施設・資材を確保する。
 > 丸森町の地域活性化を推進するための諸施設を導入する。
 > 防災上の機能を損なわないよう配慮した上で、平常時の利活用を考慮した施設配置とする。
- ③ 水防センター
 > 必要とされる防災時の機能を満たす諸室構成とする。
 > 丸森町のゲートウェイとするため、観光レクリエーションで必要とする諸室を確保する。
 > 諸室は平常時の利用を考慮した配置とする。ただし防災時の緊急時利用に十分配慮する。
- ④ 河川防災ステーション周辺の平常時利活用の推進
 > 阿武隈川と一体的になった平常時の利活用を推進する。
 > 防災資材の上面や災害時の駐車場を広場や公園として多目的に利用する。

2.土地利用・動線・施設配置

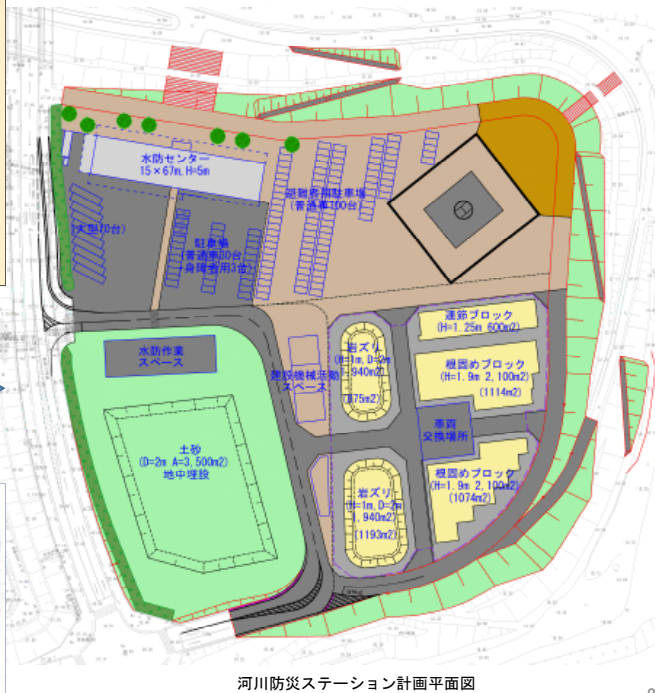
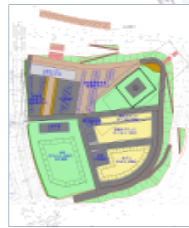
- ▶ 土地利用
川側のボックスカルバートは埋設、土砂部分の広場利用、阿武隈川沿いの広場利用
- ▶ 主動線
R113号の北側（角田方面）からの左折の進入路と交差点からの進入路を主動線
- ▶ サブ動線
河岸へのアプローチ（幅広階段、スロープ）、管理用道路のプロムナード利用、内川桜づつみ公園への誘導路
- ▶ 防災資材の配置
土砂は地中化、岩ズリ・根固めブロック・連節ブロックの集約
- ▶ 駐車場の配置
平常時の拡張（土砂置き場など）、災害時の転用（平常時の広場）
- ▶ 水防センターの配置
阿武隈川の眺めを楽しめる川側に配置

▶ 河川防災ステーションの必要施設規模
全体面積 : 約 42,140㎡
全体土量 : 約 270,000㎥

第1回資料時点



第2回資料時点

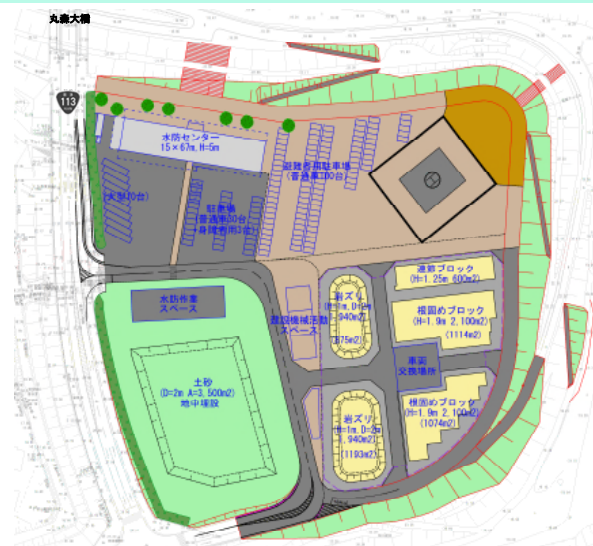


河川防災ステーション計画平面図

2

2.土地利用・動線・施設配置

平面図



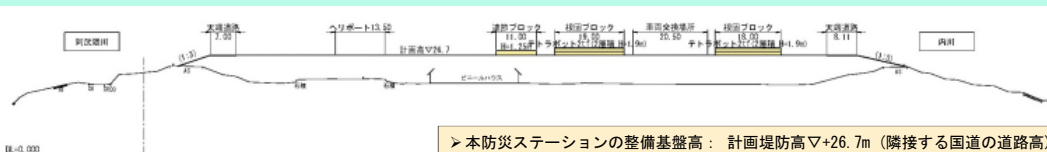
河川防災ステーションの施設規模

種別	面積 (㎡)	備考 (施設の内容、機能等)
資材置きスペース	8,700	
根固めブロック	2,100	ブロック: 2t/個、必要備蓄量N=1,610個
岩ズリ	2,500	岩ズリ: V=3,600㎥
土砂	3,500	土砂: V=5,600㎥
連節ブロック	600	シヤックルタイプ N=2,030個
水防センター (車庫含む)	1,005	建築敷地面積
建設機械活動スペース	510	バックホウ (0.7m) 4台 (台/㎡) が同時に活動できるスペース
水防作業スペース	630	水防準備活動スペース (土嚢作成、材料積み込みスペース)
駐車場	2,980	普通車30台・身障者用3台、大客车10台の駐車スペース 駐車場面積: A=2,974 ㎡、2,980 ㎡
車庫交換所	420	10tトラック車両回廊スペース
ヘリポート	1,020	防災用ヘリポート (7200×775式 AS332L2 型/みちのく号) の離着陸帯、安全帯を含む
道路	8,520	場内道路幅員は、ダンプトラックの往復に必要な相互2車線の幅としてφ=7.0m確保 場内道路4,406㎡+坂路555㎡+天端道路3,557㎡ = 8,518 ㎡、φ= 8,520 ㎡
その他	18,356	盛土前面積A=5,000㎡、その他
小計	33,440	
全体面積	42,140	

▶ 資材の備蓄量

破堤時の堤防被災規模が最大となり、復旧資材を最も多く必要とする角田市内の阿武隈川左岸を対象としている

標準断面図

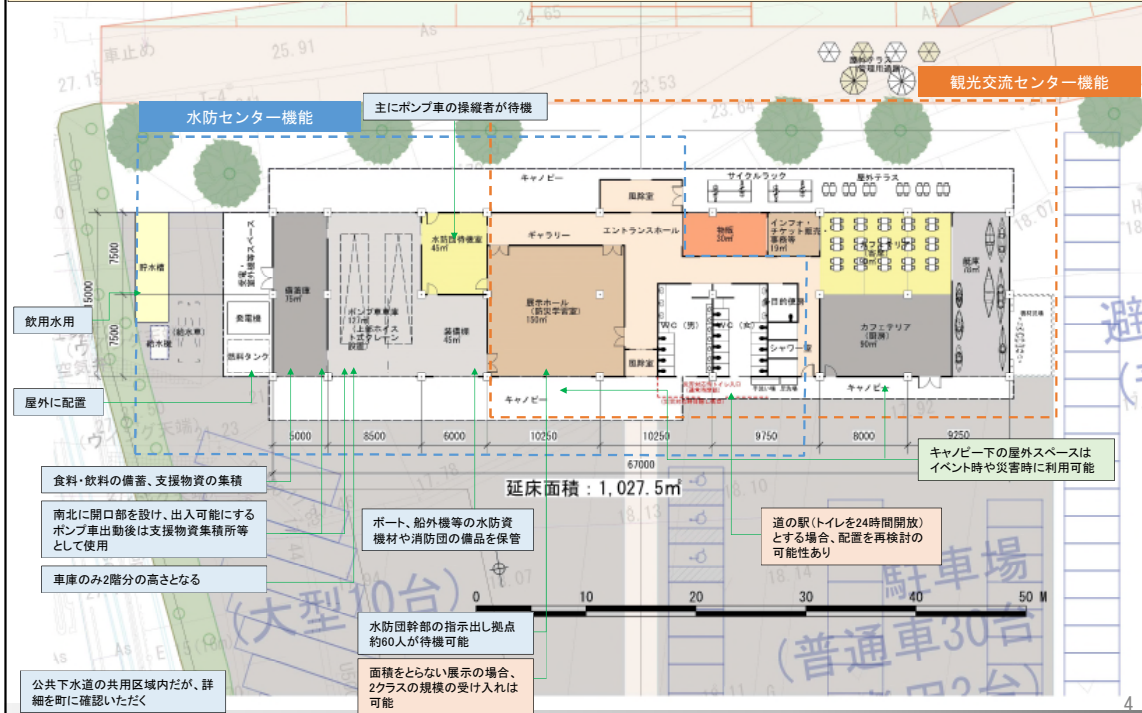


▶ 本防災ステーションの整備基準高: 計画堤防高▽+26.7m (隣接する国道の道路高)

3

3.水防センター整備計画(案) -丸森町計画-

- ▶ 水防センター機能に加え、町のゲートウェイとするため観光交流センターとしての機能も導入する。
- ▶ 展示ホール(防災学習室)は、教育旅行等の受け入れを想定し、防災の観点から台風19号等の水害を含む町の歴史や土地利用の変遷の紹介のほか、体験型展示も検討する。災害時は、水防団幹部が指示出しをする指令室や緊急救助隊等が待機する受援拠点となる。
- ▶ 整備内容の詳細については、想定される事業者と協議し、持続可能な事業としての検討を進めることとする。



4.河川防災ステーションの平常時利活用(案)

平常時



4.河川防災ステーションの平常時利活用(案)

平常時

フォトモンタージュ

芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

水防センター・観光交流センター

防災学習の場、飲食・物販スペースおよび阿武隈ライン舟下りの拠点としての整備を検討

居久根の再現

水防センターの北西

川の駅

河川敷公園としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線(階段・スロープ)

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

6

5.河川防災ステーションの災害時利用(案)

災害時

水防センター

ミーティング

支援部隊との調整

物資拠点

災害対応車両用駐車場

水防センター 15×67m, H=5m

避難者用駐車場 (普通車100台)

大乗(10台)

駐車場 普通車30台 身障者用3台

遊技機械活動スペース

土砂 (D=2m A=3.500m²) 地中埋設

岩ズリ (H=1m, D=2m 940m²)

根固めブロック (H=1.25m 600m²)

根固めブロック (H=1.9m 2,100m²) (1114枚)

根固めブロック (H=1.9m 2,100m²) (1074枚)

車両交換場所

ヘリポート

資材・作業ヤード

【関東地整事例】根固めブロック (応急復旧工事箇所)

【関東地整事例】土砂 (応急復旧工事箇所)

防災活動拠点として

- ・備蓄資材の運び出し
- ・水防活動の拠点
- ・一時避難場所
- ・支援物資の集積・仕分け

7

5.河川防災ステーションの災害時利用(案)

災害時

フォトモンタージュ (災害時)

水防作業スペース
水防団員が土のうづくりなどを行う場所

災害対応車両用 駐車場
災害対応者や災害対応作業を行う車両の駐車場

水防センター
水防活動の司令室、水防資材の倉庫、支援物資の集積拠点、炊き出し、受援拠点としての待機場所、避難者の一時待機場所

避難車両 駐車スペース
普通車100台分

建設機械活動スペース
水防活動等に使用される建設機械の配置・活動場所

ヘリポート
人・物資の緊急輸送に対応するヘリコプター発着所

備蓄資材
災害時は重機が入って資材を運搬

8

6.河川防災ステーションと一体となった周辺整備(案)

周辺整備

河川防災ステーション周辺に広がる良好な河川空間を人々の憩いや癒やしの場となるよう整備

整備施設 (案)
散策路、休憩スペース、眺望広場 等

かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)
丸森町の川湊・渡し・城跡・橋の歴史を訪ね歩く散歩道。町と川のつながりを学ぶ

● 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場
→ ● 鳥屋嶺神社 → ● 船場地区 (フラワーロード整備) → ● 丸森橋 → ● 姥石 → ● 丸森大橋 → ●

フラワーロード (A~B)

散策路や舟下りの船からあじさい観などの眺めを楽しむ

じゃぶじゃぶ池 (環境学習)

飛び石

水辺の楽校

子供たちが水とふれあい、学習できる場に親しみを覚える施設を整備

利活用メニュー (案)
水遊び、環境学習、防災学習

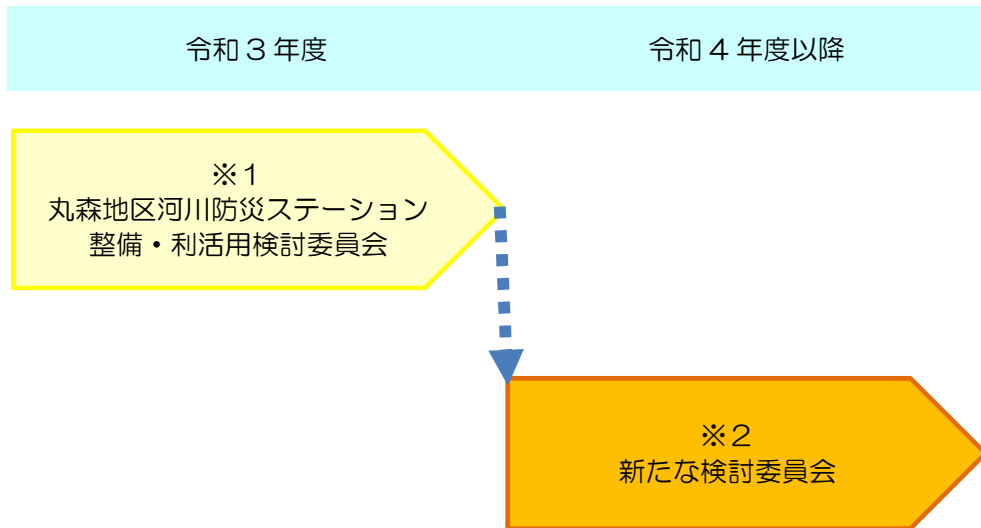
施設整備 (案)

- せせらぎ水路：内川から水をひき日常的に一定の水が流れる
- じゃぶじゃぶ池：常にある程度の水位を保つ
- 飛び石：河川防災ステーションと桜づつみ公園を結ぶ

川の駅
河川防災ステーションを「まちのゲートウェイ」に

9

令和4年度以降の進め方



※1 河川防災ステーションの整備内容及び上面配置計画の検討
河川防災ステーション及び周辺地区の利活用検討

※2 水防センターの設備及び構造の検討
河川防災ステーションを含む周辺の具体的な利活用メニューの検討

新たな検討委員会は、本委員会の委員を基本とし、水防センター及び周辺地域の利活用を担っていく関係機関、個人を新たに加え、検討を進めていくこととする。